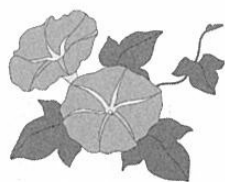


ニコニコ法話



おまじりの時の父の言葉で時々思い出すことがあります。

それは、朝のお掃除のことです。昔は、朝

起きたらすぐに分担に分かれてお掃除をしました。女の子は、母の手伝いで朝食の準備です。

子どもですから、朝起きるのは眠いし、冬は寒いし、水

は冷たいし、で大変でした。誰もが少しでも、あるいは他人より楽をしたいと考えていたと思います。庭は、掃き掃除、そして庫裡は、叩たたきをかけて、箒ほうきで掃いて、回廊は雑巾がけです。雑巾バケツの水は、どろどろに汚れる前に入れ替えなさいと、何度も言われていました。水が汚れ

ていては、雑巾がけの後に白い筋が残ります。

きっと父は子どもたち一人ひとりの様子を見かねたのでしょう。こう言いました。

「要領はたきのいい奴は叩たたきをとる。次の要領のいい者は箒をとる。要領が悪い者は雑巾になる。」

要

領

子ども心にその意味を考えました。叩たたきは楽です。パタパタ

と障子の棧をたたいて音を立てていけばいい。叩たたきは軽いですしかがむ必要はありません。叩たたきがかかったかどうかも分かりません。時間が来れば終わりです。箒ほうきは、手を汚す必要がありません。冷たい水にも触りません。掃いたふりをしていけば、きれいになったかどうかは一見分かりま

ニクニコ法話

せん。「居候四角い座敷を丸く掃く」は母の言葉でした。雑巾がけが一番大変です。雑巾を絞って押し拭きですから、かがまなければなりませんし、力が要ります。かけたかどうかは一目で分かります。冬は水が冷たい。手が凍ります。

叩の人は、終わったからと言って雑巾がけをすることはありません。箒の人もおなじです。いつも叩をとる人、箒をとる人、雑巾をとる人は決まっていました。

父の言葉の意味は、お掃除にその人の心が表れること、人の嫌がることを率先してやりなさいということだろうかと思いました。進んで雑巾をとるような人になりなさい、地味で目立たないことをやりなさい、要領の悪い人になりなさいととりました。

あれから六十年、自分は雑巾をとり続

けていただろうかと、いつも自問自答しています。



調理の写真の左一番手前で食器を拭いている方が「ほおずきになったひでこちゃん」です。